

# SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



みんなでボウリングGOO～

2008年  
7  
月号



## 目次

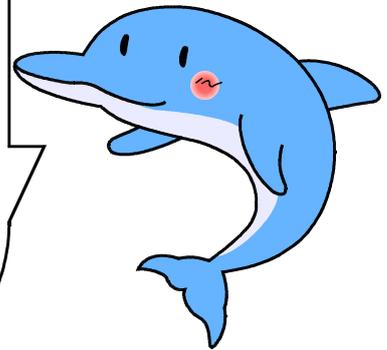
定例総会報告	2
旅行実踏報告	3
虫めがね	4
虫めがね、トピックス	5
学習会	6
実習所報告、夕会	7
頑張ってます！風工房	8
小野塚さん連載	9
太田稔さん連載	10
寄付のお礼、 スケジュール	11
編集後記	12



## 6月14日(土) 風の子会 定例総会報告

右田 磨子

みんな元気ですか。  
夏休みはどこに行きますか。  
まこは海行きます。海は大好きです。  
好きな人と二人で行ってみたいです。  
みんな暑さには気を付けて下さい。



風の子会は昨年来の方針通り、今年の四月をもって、心身障害者通所訓練事業から自立支援法の障害福祉サービス事業への移行をした。

心身障害者通所訓練事業は、四十年前の美濃部革新都政の時代に、障害児を持つ親の願いを受けて、公的あるいは既存の法内施設がなくて、在宅を余儀なくされる障害児（者）のための自主的な通所グループを支える制度として東京都でスタートした。この心身障害者通所訓練事業は国の施策の遅れによる障害者問題を地方自治体が切り開く象徴的な制度の一つで、障害者医療費助成制度、障害児の希望者全員就学そして養護学校義務化と並び、先進的な障害者施策を東京が先駆けることで一気に全国に広がった制度であった。

そして、それは障害者運動の成果であるとともに、その後の障害者運動を進展させる力を生み出す源泉でもあった。通所の場の実践と要求が、障害児から「僕も働きたい」障害者に広がる中で、障害者通所授産事業を生み出し、全国的な共同作業所づくりの運動に発展してきた。

四十年後の今、国が「福祉国家」から「構造改革、自由競争の国」にその看板を書き換え、東京都も施策推進の活力を失い変質無力化した中で、美濃部革新都政の成果である諸制度は大きく変遷し、通所訓練事業も廃止が決定された。「ひとりぼっちの障害者をなくそう」と始まった風の子会の通所は、この通所訓練事業制度により支えられてきたが、私達の事業を継続するには、自立支援法への移行

を余儀なくされることになった。

この移行は、私達の通所事業が初めて国の制度の中に位置づけられるという意味では、発展のようにも見えるが、私達の事業が飛躍的に改善できた訳ではなく、むしろ、国の制度の水準を私達の通所事業レベルまで押し下げてきた産物であるとも言える。移行により変わったことは、悪名高き介護保険と同様に、従事者に対するより劣悪な賃金水準と、事業者に対する過重な書類報告義務ではないかもしれない。それでも、ないよりましなのだろ。とにかく、移行で生き延びる手だては出来たのだと、私達を納得させるしかない。

総会の出席者は、このような障害者施策の変遷の歴史と、風の子の歴史と移行の背景を知っている。だから風の子に対する思いは次の点で共通している。その苦闘の人生経験から「やはりそんなものだろう」と、その楽しい思い出から「風の子には良いところがある」と、お互い同士の絆を確信するから「風の子に團結していくしかない」と、将来は見えないけれど「風の子は、ここから、これから始まる」と、そして「なんとかなるさ」と。

総会は滞り無く、十九年度事業報告、十九年度決算、新年度役員、二十年度活動方針、二十年度予算、を承認決定した。そして、十一月に創立三十周年記念パーティを行うことを決定した。

事務局長 井出義文

### 銚子の海が 一望できますよ～



太田 稔

去る、六月十五日、行事委員会、九月六日、七日の両日に行われる、旅行の下見に行つて来ました。今年、千葉県の銚子、泊まる場所は「かんぼの宿、旭」朝八時頃三田の、障害者福祉会観を出發した僕たちは、途中「犬吠埼灯台」と「犬吠崎マリパーク」に寄りました。が、バリアフリーになつておらず駄目でした。「かんぼの宿、旭」に着いたのは午後二時過ぎでした。お風呂場などを見せてもらいました。広くて大変キレイでした。きつと皆さんに満足してもらえと思っています。



## 実踏報告

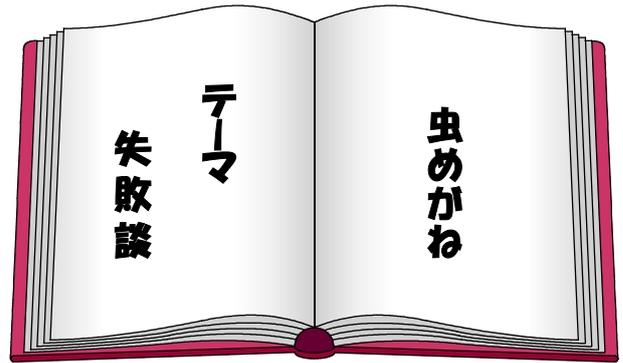
六月十五日に旅行の下見に行事委員として同行しました。今年の旅行は千葉の銚子方面へ行きま。今回は二組に分かれて観光地を見て回り、合流して旅館を見学しました。僕が見学した箇所は成田ゆめ牧場と航空科学博物館です。ゆめ牧場は家族向けの牧場で、科学博物館は飛行機マニアにはたまらないスポットです。旅館は海岸線が一望できて、温泉も広くて良さそうな感じでした。僕は今回で二度目の下見参加だったので、緊張感もなく楽に同行できました。この下見が旅行本番に活かせるように、今後の会議で検討したいと思います。

小野塚 航



牛さんこんにちわ～

今回でこのテーマはラストです。担当メンバーは天海さん、太田圭子さん、佐久間さん、三木さんです。  
さあ、みんなどんな失敗談を聞かせてくれるでしょう。



天海 隆一

もうこの歳になると失敗もかなりなもので、本当に自分自分で嫌になることも、しばしばあります。時に、本当に自分が嫌になります。昔は若気の至りで自分の中で「あーまたやっちゃったー」と思ってから後で自己嫌悪に陥り、自分の中ですごく落ち込み、反省し、「げんなり」していました。もうこの歳になるとある程度までは、自分を許す気持ちで芽生えてきました。「本当はそれじゃいけない」んでしようけれど。

はつきり言うと、言葉の「言い間違い」です。僕は昔から言葉がすぎてしまうクセがあって、つい、思ったことを相手がどういうふうにおもうと、またどんなふうに使われていようがおかまいなしで特に考えもせずに、パッと、その時その瞬間で思ったことを口に出してしまうクセがあるので。これが僕の失敗談です。後は、家のトイレの便器を割ったり、トイレの水をつまらせてしまったことはあります。言葉って本当に難しいですね。

パソコンを使用しているとわからないことがたくさん出てきます。今回はホームページを作成しているの失敗談を書きたいと思います。

htmlファイルと画像のファイルを別々のフォルダに入れておいたところ、リンクできず、初めてアップロードしたとき画像なしで、文字化けという結果になってしまいました。また、画像のファイルをわかりやすくするために、ひらがなや漢字で保存していたところ、アップロードできずかなり解決に時間を費やしてしまいました。かなり初歩的な間違いをしてしまいました。



佐久間 庸

私は昔から自覚はないのですが、これでも主婦？。結婚後五年ぐらい経ってからやっと夜の食事の支度と、三時のコーヒーを入れるようになりました。子供の時から母のやっている事を見ていた私は、同じ材料と調味料を使っても母と、同じ味は出せないことを知りました。他にも二三有るので、私の一歩の失敗はウイスキー御飯を炊いた事です、お米をといでしまつてから日本酒が無いことに、気が付いた私は深く考えもせず「同じアルコールだから良いか！」と、手近に有ったウイスキーを入れてしまつたら、さあーたいへん十分後ぐらいからウイスキーの匂いが漂いはじめ、時間が経つごとに部屋中に強い臭いが充満してきて、たまつたものではありませんでした。もちろん食べられた物ではなくて、一口食べただけで捨ててしまいました。御免なさい。

太田 圭子

## トピックス

今回は練習量不足でか暑さのためか、記録が去年に比べると不甲斐無い結果でした。『砲丸投げ』は約7m強で、『ソフトボール投げ』は30m強。砲丸投げは毎回安定してまあ良い記録は出ているのだが、ソフトボール投げは去年比でマイナス八・五mでした。しかしソフトの記録は去年を除いた今迄の平均記録が約三二mなので、去年が何故か物凄く飛んだという考えも出来るのですが、それでも今回はこの平均記録より落ちていて、ことには変わらず、去年の記録が記録だったから、慢心し驕つていたのかも知れません。殆ど実際の行動に似た練習・筋トレが出来ない砲丸は安定していて、まだ似た事（チューブトレーニング等）が出来るとソフトの方がどんどん記録が落ちていくのは歳なのか何なのか残念ですが、ソフトの方はもう少しでもトレーニングの種類を増やす等（実際に遠投したり、キャッチボール等）して去年の記録（『都大会記録』 - 『約〇・五m』）を抜き、更に都記録を抜きたいです。

田村 亮彦

僕は思います。失敗は生きていればたくさんあります。でもそれをいちいち覚えていたらマイナス思考の人間になって最悪鬱病もしくは引きこもりになりかねないとも言切れません。ですから人は失敗した事は忘れるようにできているんです。（前に進むために）一度失敗したら二度と同じアヤマチを繰り返さないよう学習するのが人間なんじゃないでしょうか。

三木 直人





# 学習会報告

## 6月11日【後期高齢者医療制度について、歌と踊りの練習】

75歳以上のお年寄りの方は全員保険に入らないといけなくなりました。お金払う大変です。丸岡さんに教えてもらいました。他には夏時間など、最近の政治の話をしました。

後半は歌と踊りの練習をしました。



## 6月18日【ボウリング、歌と踊りの練習】

高浜でボウリングをしました。新しいレクリエーションでした。運動して楽しんだ。僕は足で玉を転がしました。本当のボウリングみたいに、みんなで交代してやりました。よかったー。

後半は歌と踊りの練習をしました。練習するうちに、だんだんと形になっていくような気がします。

## 6月25日【戦国の歴史、歌と踊りの練習】

矢代さんと内田さんが教えてくれました。織田信長の本能寺の変を簡単に教えてくれました。クイズや格言など面白くしてくれた。またやってほしい。

後半は歌と踊りの練習をしました。



## 7月2日【障害者自立支援法、歌と踊りの練習】

障害者自立支援法について丸岡さんが教えてくれました。難しい問題なのでよくわかりませんでした。もう一度勉強したいと思います。

後半は歌と踊りの練習をしました。だいぶうまくくなりました。僕もセリフをちゃんとできました。

担当・松本 恵司

朝生 孝之

内職を探して  
いききたいで  
す。その他に  
は、ポラント  
イアさんがも  
つと来て欲し  
いです。



## 風工房報告

りや芝学園バザーの商品の数を決め  
ました。はなみずきとテルベからも、  
注文が沢山来ました。出すところが  
多いので、商品作りを毎日していま  
す。はがき作りを頑張らないといけ  
ないと思いました。今後は、新しい

工房会議では、港  
養護学校の夏まつ  
りや芝学園バザーの商品の数を決め  
ました。はなみずきとテルベからも、  
注文が沢山来ました。出すところが  
多いので、商品作りを毎日していま  
す。はがき作りを頑張らないといけ  
ないと思いました。今後は、新しい

今月の工房は、  
フレンド学園の女  
子高校生三人がボ  
ランテアに來ま  
した。歌と踊りの  
道具作りや、Tシ  
ヤツ・タオルのチ  
ラシの折り込みを  
一緒にやりました。  
楽しい時間を  
おくれました。ま  
た来てくれたらう  
れしいです。あと、  
モリベさんの箸の  
内職をしました。

## 実習所報告(^\_^)b

今年もまたTシ  
ヤツ、タオルの販  
売の季節になりま  
した、企画ではパ  
ンフレットを取り  
寄せて風の子便り  
に入れたり、工房  
の人達に手伝って  
貰って区の施設を  
回って、パンフを  
置いてきたり、近  
所の知り合いの商  
店に頼んだりして  
きました。

太田 圭子

六月一日に行われた外へ出よ  
うに参加した人達、九五名が作  
った俳句を俳句集にするために  
今港南作業所では、四人が生  
懸命その作業に取り組んでいま  
す。



## 風企画報告

### 夕会便り

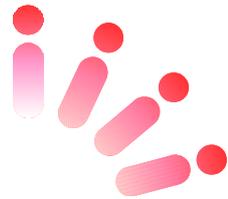
6月28日【暑気払いについて】

毎年のように、夏休み前の週の土曜日に行われている暑気払いを、今年も  
するか・しないかを決めました。その結果行われることになり、8月9日(土)に  
決定しました。実行委員も決まり、メンバーの雨宮さん・太田稔さん・田中と、  
職員の内田さん・小林さんです。当日をお楽しみに・・・

田中 聡



## 頑張ってます！風工房



今回の「頑張ってます！風工房」は、港区役所にある福祉売店「はなみずき」での19年4月～20年3月までの年間売上ベスト5を発表したいと思います。

第1位	ストラップ（花）	416点
第2位	ストラップ（ツリー）	187点
第3位	メモ帳	161点
第4位	ミニノート	145点
第5位	和紙しおり	117点

以上の結果になりました。ストラップ（花）は前年度の1位に引き続き、今年度も見事1位になりました。また、売上げも昨年度を大きく上回る結果となり、風の子にとって和紙ハガキと同じく、代表的な商品となりました。

2位から5位までは昨年度と同じ商品となりましたが、こちらは昨年度より売上げが落ちてしまいました。ただ、年間を通して100点以上の売上げがあるので、これはとても立派なことだと思います。

これからの目標としましては、昨年から新商品として出した、飾り楊枝のような新商品をどんどん開発していきたいと思います。皆様も港区役所に行った際には、ぜひ「はなみずき」にお越し下さい。

### 牛乳パック集めてます！



ただいま、風工房の主力商品である、手漉き和紙の材料となる牛乳パックを集めています。飲み終わった牛乳パックがありましたら、洗って開いて乾燥させたものを風の子会に御寄付いただくと嬉しいです。よろしくお願ひします。

### ※内職を探しています※

今、風工房では内職の仕事を探しています。今までに色々な内職をやってきましたので、どんな軽作業でもやれる自信があります。もし、内職をする時間がない方もっと安く人件費を抑えたいと思っっている方がいましたら、風の子会までご連絡下さい。よろしくお願ひします。



## わたるのドミトリライフ

【ドミトリとは英語の dormitory つまり寮という意味】

### 第11話 2年目の部屋の雰囲気

2年目の僕の部屋は、同じ部屋の友人と相部屋になったことで、次第に他の友人がよく遊びに来るようになっていった。僕が実家からもってきたスーパーファミコン（プレイステーションは当時はまだなかった）で、夜通しみんなで盛り上がり、相部屋の友人も麻雀ができるので、他に打てる仲間を探してきて徹マンをしたりと、部屋は毎日のように賑やかだった。

中学や高校の頃も、僕の家には友達がしょっちゅうきていてとにかく騒がしかった。でもそれは母や妹や父がいろいろとてなしてくれたからで、僕自身に魅力があるかどうかというのは、正直に言ってよくわからなかった（勿論、家族の好意には今でも感謝している）。でも、寮のこの部屋にいろんな人が遊びに来るとというのは、相部屋の友人がいいやつだという事もあるけれど、もしかしたら、僕にも何かしらの力があるのではないかと思わせてくれたりもした。

1年の時の隣の部屋の関西人の先輩はこの年には4年生になり、あまり寮にはいない事が多くなった。それでも寮に帰ってくると麻雀をしたりドライブをしたり、時には夜通し語り合ったりもした。この頃は特にドライブをした事が印象深く記憶に残っている。前にも書いたと思うが、思いつきで神戸まで行ってしまったり、東名を経て夜の富士スカイラインを延々と走り続けたり、5人くらい車に乗り込んで八王子の駅前にある銭湯に入りこいたり、とにかくその場の勢いや思いつきで何でもかんでもしていたように思うし、当時の僕はそういうノリがたまらなく好きだった。

たまに先輩と二人だけで寮の近辺を車で走り回る事もあった。先輩も先輩なりに悩みや不安などを抱えていたのだろう。ポツリポツリと車内で愚痴ともぼやきともれぬ言葉をこぼしていたこともあったし、僕の悩みー当時の人間関係や将来への漠然とした不安ーを聞いてくれたりもした。考え方や趣向が似ている部分が多いのか、僕と彼は先輩と後輩であり、また同時にとても近い友人でもあった。まあ、そんなふうに見えるようになったのはここ数年の事であり、当時の先輩は頼れるお兄ちゃんという印象の方が強かったが。

この年の秋頃から、一人の1年生が部屋によく入り浸るようになった。自分の部屋の先輩との折り合いが悪いのか、あるいはこの部屋の居心地が良かったのか、とにかくこの後輩はしょっちゅうこの部屋にいた。秋田訛りのまだ少し残る、細面でけれど筋肉質なこの彼の最初の印象は一言でいえば猫だった。自分の居場所を求めて彷徨い歩き、この部屋に辿り着いた。そんな感じだった。

この彼とは、その後長い付き合いとなるのだが、それはもう少し先の話だ。

～ 第12話へつづく ～

# 母の思い出

## 第十二回

太田 稔

母のつとめは始まった。夕方五時過ぎに化粧もしないでそっと出かける母。そんな母に僕は聞いたことがある。「お袋、どうして化粧もしないでそそくさと勤めに出かけるの、もつと堂々と出かけた方がいいと思うよ」すると母はこう答えた。「アメリカでは悪いことをしてなければ、相手の職業をけなしたり、後ろ指は指さないですよ。でも日本ではまだ職業に対する偏見がだいぶ残っているわ。だから稔の気持ちも分かるけど自分の間お勤めに出るときはこんな形で出かけるからねえ」母はそれから、八年くらい働き続けた。しかも夜が、一時、二時はさうだというのに、休みの時は僕を行楽地へ連れていってくれる、今考えてみると、だから母は早く亡くなってしまったのかも知れない。母との思い出で、どうしても書いておかなければならぬことを、思い出したことがあるので書いておこう。それは何かといえは八丈島に、母と最後の旅行を楽しんだ時の事である。母は僕のことを風呂に入れないながらこんな事を言ったのである。「わたしはそう長生きは出来ないとと思うの、だから稔に言っておきたいことがあるの。稔は私が死んでも一時的に悲しがるだけですぐ立ち直ることが出来るわ。でも問題は久美よねえ。久美が江田さんと結婚してくれれば一番いいんだけどねえ。」母は八丈島から帰った後間もなく、胃ガンで倒れた。倒れる前の状態は嘔吐が激しく、物を食べなくても、胃液を吐くようになってしまった。そして母は即病院に入院した。そして母はすぐに手術を受けた。医師は胃を開いてみて愕然としたそうである。母の胃はガン細胞に冒され放題冒されていて、とても治療を施すような状態ではなかったという。担当医師はやむを得ずガンの摘出を諦めたのである。このことは妹にはすぐ伝えられたが、僕には伝えられなかったのだ。医師は僕のことを心配してくれていることだろうと思うが、これは僕にとつては非常に迷惑な話だった。お陰で後で解ったときには僕の悲しみや苦しみが倍増したのだ。母はやはり医師からは手術の結果を知らされなかった。ところが妹の友達が家に来たとき、母の話が出た「貴方のお母さん相当にお具合が悪いですよ。別の友達から聞いてびっくりしちやうてね、それで飛んできたって訳」「お兄ちゃんが隣の部屋にいるの、まだこの話はいらないのよ。だつて今兄貴にこういう話をするとう兄貴の気がおかしくなってしまうわ」それを僕が隣の部屋で聞いてしまったのである。友達があると僕は泣きながら妹を問い質した。「久美、友達とお前が話していたのは本当の話か、お袋はそんなに悪いのか」「お兄ちゃん、やっぱりあの話聞かれちゃったのね。仕方ないから話すけど、お兄ちゃんお願いだからあんまり泣かないでね。お母さんは早ければ後一ヶ月、遅くてもあと二ヶ月くらいしか持たないつて担当のお医者様がいつていたの。でもこの話をお兄ちゃんに話したらお兄ちゃん気がおかしくなっちゃうと思つたのよ」でも妹のいうことはまるつきりオーバーではなかった。事実平静を装っていた僕だが心の中は大混乱を起こしていたのだ。（母があと二ヶ月で死ぬ、母は僕が生きている間は生きていられると思つたのに）今の僕では考えられないことだが本当にあの頃はそう思っていたのだ。ところが母もまた同じ思いだった。（私は死ねない私が死んだらこの子はどうなるの）母と僕がそんなことを考えている間にも病状は進んでくる。彼女の体はだんだん痩せ細っていく。そして三月の末、母は、お医者様の止めるのも聞かずに僕を青山墓地へお花見に連れていってくれた。桜の下で僕と母は色々な話をした。僕の小さい頃の話や、妹の話、さらには自分が死んだ後に稔はどうやって生きていったらいいのか。母は言う、「いつかも言ったように、私が死んでも稔は心配ないと思うわ。でも久美がちやうと心配なところがあるの、だから今付き合っている江田さんと結婚してもらいたいの」桜並木の下でこんな話を僕としたのだ。それが母と外に出かけた最後の夜だった。

次回に続く

# 寄付のお礼

（六月八日～七月五日）

ご寄付を下さった方  
和栗頭太郎様

賛助会にご賛同下さった方

近藤綾子様 小野田和子様 青木和代様  
滝口雅祥様 長谷川誠様 山本セツ子様  
渡辺さよ子様 鈴木公子様 小久保薫様  
吉本道子様 仏頭邦子様

物品を下さった方

薛芬芳様 松澤いく世様 昆咲子様  
稲井田様 牛山様 坂本様

誠にありがとうございます

お詫びと訂正

先月号の寄付のお礼の名前表記に誤字・脱字  
がありました。ここで、お詫びと共に訂正させてい  
たきます。

（誤）黒沢フミ様 ↓（正）黒澤フミ様  
（誤）長坂富沙子様 ↓（正）長坂富紗子様  
また、木田節子様の敬称が抜けておりました。  
大変失礼いたしました。



## スケジュール

- 7月 1日（火） 総務部会
- 7月 12日（土） 歌と踊りの集い
- 7月 30日（水） 運営委員会
- 8月 9日（土） 暑気払い
- 8月 14日（木）～8月 24日（日）まで  
【夏休み】
- 8月 31日（日） 高浜夏まつり
- 9月 6日（土）～9月 7日（日）まで  
風の子会一泊旅行
- 9月 8日（月） 振替休日



## お知らせ

大変好評を博しております、和栗頭太郎さんの連載「シベリア出兵秘話」は先月号に引き続き、今月も休載とさせていただきます。  
愛読者の皆様には大変申し訳なく思っております。来月号では再開予定ですので、しばらくお待ち下さい。



# 編集後記

車椅子を電動式タイプのものに、変えようとして、その練習中、あまりのスピードに慣れていけないうことがわかって、我が家においでる、従来の手動式タイプの車椅子とメーカーの交換を渋っている。本当に、ステイックの操作だけで走る電動式タイプの車椅子が怖いのだ。優れた性能についていけないのだ。やっとなさ。自分が気の小さい女であることが。

吉田 久代



私の大事にしている図鑑がある。飛行機に興味のある方、航空機ファンの方なら、この図鑑を一目見たら、きっと欲しくなると思う。今から七、八年前、故松沢宗広さんの御母様から、私に毎年暮れになると飛行機や軍艦のカレンダーを頂いて、今でも大事にしており入った箱の中に、いろんな軍事関係の図書が出ています。何気なく見ていたら、大文字が目に見え、よく見ると、



日本航空機大図鑑が三冊と、付録が一冊付いている。明治四十五年の日本の航空黎明から昭和二十年八月十五日終戦の日までの、日本の陸海軍の軍用機と、民間機、外国からの輸入機を含めて、日本のあらゆる航空機が、全部カラーで、手書きで精密に、しかも正確に描いてある。この航空機の製作した会社名から性能、有りとあらゆるデータが、この図鑑、値段は物品税入れて十万千三百円で買いました。こんな素晴らしい図鑑を買って良かったと思いません。こんな素晴らしい図鑑を買って良かったと思いません。こんな素晴らしい図鑑を買って良かったと思いません。

僕は昔から飛行機が好きです。飛行機といっても航空機の方で、民間の旅客機のほうです。僕はつい最近も、一人でふらつと羽田空港と成田空港に行ってきました。飛行機を見ると何故か気持ちが悪くなります。気分が晴々しません。特にあの音がたまらなく好きです。僕はこれからも飛行機を見に行きたいと思いません。

和栗 頭太郎



天海 隆一

## ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ~定価40円~

編集者  
 天海 隆一  
 太田 圭子  
 小野 塚  
 松田 聡  
 田中 彦  
 佐久間 亮  
 三木 直人  
 幸木 史郎  
 和栗 頭太郎

発行人  
 障害者団体定期刊行物協会  
 東京都世田谷区砦6-26-21

編集人：【高浜生活実習所】  
 生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075  
 東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階  
 TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://www.kazenokokai.npo-jp.net/>

